

読売歌壇

小池 光選

服を着る犬ばかりある公園に素っ裸なるシエパードがくる
【評】最近の犬は、多くがかわいらしい服を着せられている。そこに獠猛なシエパード犬がやってきた。さすがにシエパードには服を着せない。素っ裸というのがおもしろい。
繰り返し何度も歌を聞いてます 八代亜紀さん 歌ありがとう
福島市 富山 貞治

【評】突然の訃報に、悲しみよりも驚きが走った。せんだつてもテレビで見たいじゃないか。惜しむ歌、たくさん寄せられたが、代表してこの歌を。本当にありがとう、楽しかったよ。
「おはよう」のメール既読にならぬまま早や一時半吾落ち着かず
大阪府 黒田 道子

【評】これは落ち着かない。ふと不安にかられる。以前はこういう不安というものはなかった。便利になるといいことばかりでない。
東京の巷に聞きし八代亜紀わが青春を連れて逝きたり
甲府市 高瀬 孝人

赤い鳥が食べたであろう赤い実が道にこぼれて赤い鳥いずこ
さいたま市 大塚 数字
日向ぼっこ座って見たが落ち着かぬならばと立つもするとは無し
真庭市 小谷 義孝

炎あがる朝市通りよ手作りのミニ草履買ひき赤き糸絡の
枚方市 鍵山奈美江
帰省した子や孫たちを巻きこみし時を選ばぬ地震を憎めり
水俣市 角田 聖子

すこしだけこのあたりが寂しいと床屋はいわなくていいことをいう
東京都 野上 卓
年玉をそっと貼り付け配達を労いドアの新聞を抜く
東京都 神通美代代

栗木 京子選

みずからが剪定した松の木に雨が降り葉に玉結ぶ
太田市 竹中 栄一

【評】丹念に剪定した松の木。芸術作品のようにしじみと眺めているのであろう。さつと雨が降ったのちの松はいっそう美しい。葉先の雨の雫を描いた結句が冴えている。
千年の雅纏いて家毎の節まわしあり百人一首
神戸市 坪田 勝彦

【評】正月に家族で百人一首をしている。すばらしい習わしである。札を読み上げるとき節まわしは代々受け継がれてきたのかも知れない。まさに「千年の雅」を感じる。
大空をぐるりと回る長元坊何か見つけた急降下する
横浜市 井上 誠一

【評】長元坊はハヤサ科の鳥。小形で、ネズミを主食とする。上句のゆるやかな動きから下句の急降下への転換が見事である。
熊除けに栗の大木切りたればゴーからヒューに冬の風音
山形市 藤原 和男

口座から口座に落とすお年玉少し早めに少し多めに
古賀市 砂山ふらり
AIが搭載された人間を壊れていても回収します
平塚市 北原 直人

図書館で文芸誌読めば佐藤愛子氏の百歳の弁に元氣湧きくる
東京都 青山 繁
クリスマス・正月の次に恵方巻 コンビニは季節のトップランナー
流山市 塙 葉子

おみくじを引いたら大吉良縁あり仲間ははやす傘寿の我を
いすみ市 安藤 敦子
獅子舞は泣く児の頭咬んだ後ついでに咬みぬ我が頭を
所沢市 工藤英津子

俵 万智選

銀紙がきみに折らせた鶴三羽翼にミントの香りを残す
大和郡山市 大津 穂波

【評】まるで銀紙が望んで転生し、前世の香りを残す鶴になった物語のようだ。ミントチヨコレートを包んでいた銀紙で、きみが鶴を折っただけのことなのに。
つたなさと伝わらなさは同じだと思つてたそつと手をつなぐまで
東京都 奈良岡 歩

【評】手をつないだ今は、同じではないと気づいたということだろう。つたなくても、伝わることもあるのだ。「つたなさ」「伝わらなさ」の音の響きあいも魅力になっている。
まだ慣れてあないただだよ靴擦れに絆創膏を貼るやうに言ふ
千葉市 小金森まき

【評】励ましの言葉だろうが、そんなに簡単な問題じゃないという複雑な気持ちが垣間見える。靴擦れの比喻が的確だ。
流れとは手放さないと流れないけれども流れたら戻らない
東京都 立川 亮

遠い日の蹴りそこなつた空き伍が今日の前のこれかもしれず
守口市 小杉なんぎん
傷ついてないふりはばかりノンホルピラス揺らして頷いている
埼玉県 玖嶋さくら

生きていく、だけでも錆びたボストには色とりどりの請求書が来る
ふじみ野市 雨雨雨汰
「耐えている」ことを「できる」と見做されて鯨の長い長い息継ぎ
朝霞市 桐島 あお

帰省から帰宅に至る道すがら今年二度目の富士山を見る
東村山市 奥守たまご
目くじらのくじらを海に還したらそのぶん広くせいかが見える
上尾市 関根 裕治

黒瀬 珂瀾選

家持も訪れたりし珠洲の里いま被災地の歌詠み人は
大網白里市 小林 栄一

【評】豊かな歴史文化を誇る能登半島。万葉歌人の大伴家持も国司として能登を訪ね、当地の歌を詠んでいる。その歌の精神を繋ぐ歌人たちの身を案じ、文化を伝えて欲しいと願う。様々な伝統行事や工芸の復興も大切だ。
ガザ地区の位置さえ知らず生きて来て廃墟となりし残影消えず
宇治市 浜岡 学

【評】戦争が起きてから初めて当地を知るということもあるだろう。しかし、そこには人が生きて、苦しんでいる。我々は世界の現実をしっかりと見つめる必要があります。
冬の夜のファストフードで過去問を積み上げる君明日は晴れなむ
立川市 市川 純

【評】夜の店舗で勉強にいそむ受験生にエネルギーを送る。街角での一瞬の出会いと祈り。川端に水神祀りし新世に生きる水欲る被災地の声
那須塩原市 野崎 征子

CDにあなたの声は生きてゐる繰り返し聞くあの『舟唄』を
中原市 山下けいこ
元日を寿ぎ賑わうTV消し父の正忌の明かりを灯す
玉名市 酒 征代

トンネルにルビーの羅列優しいと思つた人の粗暴なる夜
鴻巣市 国島智香子
麻痺の手で贖状をさするわが妻は「文字」文字愛おしそくに
狭山市 若松 吉弘

ただ残る母の手紙は清瀬なる療養所から昭和の消印
東京都 三角 政勝
ピアノには拍手起こらず弾いた後に丁寧拭き拍手が起こる
オランダ 宮沢 洋子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はごうかくきがん